



南三陸町長 佐藤 仁

# 感謝、そして復興へ

未曾有の大災害が発生した平成23

年が幕を下ろし、新しい年を迎えました。町民の皆様におかれましては、昨年3月11日の大震災によって、大切な家族やご親族、多くのご友人の方々を一瞬のうちに失くされ、悲しみの中で年を越されたこととご推察をいたしており、あらためて、衷心よりお見舞いを申し上げます。

大震災発生以来、全国の多くの団体やボランティアの方々から様々なご支援と激励をいただきました。本当にありがとうございます。皆様の献身的な活動とご支援によって、ライフラインの復旧が進み、一時は絶望の淵にあった我々町民も、一歩ずつではありますが、生活の再建や町の復興に思いを致すことができる

ようになってきたと思っております。

復興元年ともいえるべき本年は、はからずも大震災の犠牲となられた多くの方々への無念の思いを深く胸に刻み、復興に取り組んでまいりたいと思っております。

町では、昨年策定した「南三陸町震災復興計画」で掲げた基本理念「自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち」への創造的復興のもと、復興に向けた取組を加速させ、町民の生活再建や産業再生など、震災前以上に豊かさを実感できる新しいまちづくりを進めてまいります。また、今回のような大津波からも命を守るため、「住まいは高台に」を基本に、住家を失くされた方々が一日でも早く、安全・安心な

暮らしを取り戻せるよう、防災集団

移転や災害公営住宅の整備等に取り組んでまいります。

国の三次補正においては、「復興道路」と位置付けられた三陸縦貫自動車道の整備促進が決まるなど、復興へ向けた動きも出てまいりました。本年は、甚大な被害を受けた町内の生産活動基盤の復旧や雇用対策にも努めてまいりますので、町民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、平成24年が、町民の皆様にとって将来への希望を見出すことができる年となりますことを、心からお祈り申し上げます。



南三陸町議会議長 後藤 清喜

# 絆・助けあい乗りこえる

昨年3月11日の東日本大震災から約10カ月。巨大津波のため、一瞬のうち南三陸町民だけで約800名の尊い命が奪われ、多くの平穏な町民生活が失われた悲しみを、あらためて深く心に刻む思いであります。

震災では、本当に多くの皆様に励まされ、助けていただきました。震災直後から今日までの、国内をはじめ広く海外の国と地域からの温かいご支援に心より御礼申し上げます。

また、震災では、町民の皆様の冷静沈着な活動や助けあいの絆の強さが注目されました。

町では、復興の基本理念を「自然・ひと・なりわいが紡ぐ安らぎと賑わいのあるまち」への創造的復興と定

め、平成32年度を目標年次とする震災復興計画を策定しました。国の平成23年度補正予算(第3号)の概要では、被災地方公共団体が自らの復興プランの下に進める地域づくりを支援し、復興を加速させるため、東

日本大震災復興交付金を創設し、土地区画整理事業・防災集団移転事業等の復興地域づくりに必要な各補助事業メニューを一括化することに加え、復興地域づくりに必要となる各種事業を実施可能とする内容であります。このことにより、町の復興推進がより一層図られることと思われ

新しい観光ルートの形成・災害時の救援ルートの確保等、三陸沿岸地域の生活環境の向上や地域産業の発展を通じ地域全体の発展が期待されますことから、今後さらに事業推進の要望を行ってまいります。

本町の復興と町民福祉の向上のため、町行政と町議会が真に車の両輪のごとく、お互いが力を出し合い、震災から立ち上がった者だからこそわかる他人の痛みや日常の感謝心を持って取り組んでまいります。町民の皆様におかれましては、なお一層のご協力をお願い申し上げます。ともに、皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げまして、新年の初頭にあたりましてのご挨拶といたします。